

インターバンクの声（2017年1月13日）

トランプ次期米大統領の記者会見では期待された経済政策の具体案が示されず、また本題だったはずの彼の不動産事業と大統領職の利益相反問題についても批判をかわし切ることが出来ずに失望のドル売りが昨日も続いた。

前日の会見後のドル売り・円買いは一旦114円20銭台で止まり、115円台半ばまでドルが買い戻されていたが、その後、再びドル売りが始まって、結局、東京時間の夕方には昨年12月上旬以来となる113円台まで円高が進んでしまった。ロンドン、ニューヨーク市場では114円台への反発と113円台への反落を繰り返したが、どうにか114円台中盤まで戻してきた。

来週の月曜日がキング牧師の誕生日で米国が休日となるため今日のニューヨーク市場が閑散気味になる可能性が高く、トランプ会見を当て込んで短期間で収益を上げようとしたドル買いポジションはかなり調整が済んだような気もする。

トランプ次期大統領は、今回の会見では財政出動や米企業の海外利益の本国への還流促進などについて具体的な言及をしなかったが、20日の大統領就任式以降まで温存した可能性もあり、トランプ・ラリーが再び始まるか、調整が深まるのかが判るのはこれからだ。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。